

授業科目の授業内容（シラバス）

科目区分	演習・実習科目				
科目名（フリガナ） 英文科目名	ポートフォリオA（ポートフォリオA） Portfolio A				
対象学生	博士課程学生				
必修／選択・単位数	必修・3.5単位	授業形態	演習	開講時期	1～4年次通年
担当教員名	粕谷 英樹				
授業内容・計画等	<p>〔目 標〕</p> <p>博士課程の学生が継続的な評価や自己評価を通し、様々な分野で自分たちの学習やその成果を研究に還元し、それらを達成するために必要なものを見出す洞察力を身につけることである。</p> <p>〔内 容〕</p> <p>論文作成の課程や論文審査に含まれる評価されることのない下記のような学習成果について web サイト Mahara を通して記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な知識とそれを認識する能力 ・研究組織あるいは一般社会において、口頭あるいは文書を通じて、研究成果について国内外のテーマに触れながら議論する能力 ・社会の発展に貢献し、研究や教育、その他の専門分野を通して他者の学習をサポートする能力 ・研究の可能性と限界を見極め研究の社会的役割と活用法の個人的責任について専門的に考察する力 <p>ポートフォリオを作成することで、論文の進捗状況や、研究における短所と長所を認識できる。ポートフォリオが利用される具体的な例として、年に1回以上、学生と指導教員によって論文の見直しをする機会がある。このようにして、ポートフォリオで評価することにより、より質の高い研究へとつなげることができる。また、ポートフォリオは研究計画を順調に進めているという根拠にもなり、将来の就職や奨学金などに使用する経歴書の材料にすることができる。</p> <p>〔計 画〕</p> <p>12 分野での文書作成と評価</p> <p>ポートフォリオを作成するということは、様々な研究分野での経験を継続して文書化するということであり、振り返りの起点にするということである。評価は、活動から何を学んだか、どのように新しい知識を活用したか、把握している短所と長所、改善策などに焦点を当てる。</p> <p>1.研究プロセス</p>				

	<p>2.研究法 3.専門分野 4.発表 5.教員としての指導や経験 6.学会やセミナー 7.研究グループとの国内外での協力 8.広い社会との協力 9.倫理的問題 10.キャリア開発 11.指導／指導者 12.管理職 例) 委員会や議会</p> <p>〔教材など〕</p> <p>〔学習上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ オンラインサポート Mahara LUCAT の ID とパスワードでログインできる。 ・ポートフォリオ ワークショップ <p>学期に数回、Mahara の使用法とポートフォリオの構成法を学ぶ機会があり、他の学生と質問や議論をすることができる。開催については E-mail で随時連絡。</p>
成績評価の基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・年度毎の職員評価の際、もしくは研究計画を見直す際に、指導教員にポートフォリオを提示し進捗状況を議論する。 ・中間評価の際、評価者 2 名がポートフォリオを評価する。 ・論文審査に応募する前にポートフォリオの承認を得なければならない。 <p>評価のポイントは各 12 分野内から自分で選ぶ。</p>

授業科目の授業内容（シラバス）

科目区分	演習・実習科目				
科目名（フリガナ） 英文科目名	ポートフォリオB（ポートフォリオB） Portfolio B				
対象学生	博士課程学生				
必修／選択・単位数	必修・3.5単位	授業形態	演習	開講時期	1～4年次通年
担当教員名	Karin Flydenlund				
授業内容・計画等	<p>〔目 標〕</p> <p>博士課程の学生が継続的な評価や自己評価を通し、様々な分野で自分たちの学習やその成果を研究に還元し、それらを達成するために必要なものを見出す洞察力を身につけることである。</p> <p>〔内 容〕</p> <p>論文作成の課程や論文審査に含まれる評価されることのない下記のような学習成果について web サイト Mahara を通して記載する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・必要な知識とそれを認識する能力 ・研究組織あるいは一般社会において、口頭あるいは文書を通じて、研究成果について国内外のテーマに触れながら議論する能力 ・社会の発展に貢献し、研究や教育、その他の専門分野を通して他者の学習をサポートする能力 ・研究の可能性と限界を見極め研究の社会的役割と活用法の個人的責任について専門的に考察する力 <p>ポートフォリオを作成することで、論文の進捗状況や、研究における短所と長所を認識できる。ポートフォリオが利用される具体的な例として、年に1回以上、学生と指導教員によって論文の見直しをする機会がある。このようにして、ポートフォリオで評価することにより、より質の高い研究へとつなげることができる。また、ポートフォリオは研究計画を順調に進めているという根拠にもなり、将来の就職や奨学金などに使用する経歴書の材料にすることができる。</p> <p>〔計 画〕</p> <p>12分野での文書作成と評価</p> <p>ポートフォリオを作成するということは、様々な研究分野での経験を継続して文書化するということであり、振り返りの起点にするということである。評価は、活動から何を学んだか、どのように新しい知識を活用したか、把握している短所と長所、改善策などに焦点を当てる。</p> <p>1.研究プロセス</p>				

	<p>2.研究法 3.専門分野 4.発表 5.教員としての指導や経験 6.学会やセミナー 7.研究グループとの国内外での協力 8.広い社会との協力 9.倫理的問題 10.キャリア開発 11.指導／指導者 12.管理職 例) 委員会や議会</p> <p>〔教材など〕</p> <p>〔学習上の留意点〕</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ オンラインサポート Mahara <p>LUCAT の ID とパスワードでログインできる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ポートフォリオ ワークショップ <p>学期に数回、Mahara の使用法とポートフォリオの構成法を学ぶ機会があり、他の学生と質問や議論をすることができる。開催については E-mail で随時連絡。</p>
成績評価の基準等	<ul style="list-style-type: none"> ・年度毎の職員評価の際、もしくは研究計画を見直す際に、指導教員にポートフォリオを提示し進捗状況を議論する。 ・中間評価の際、評価者 2 名がポートフォリオを評価する。 ・論文審査に応募する前にポートフォリオの承認を得なければならない。 <p>評価のポイントは各 12 分野内から自分で選ぶ。</p>